

トキとはどんな鳥か

- 分類：コウノトリ目 トキ科 トキ
- 学名：*Nipponia nippon* (Temminck, 1835)
- 別名：朱鷺、桃花鳥(日本書紀)、ドウ(方言)
- 中国名：朱鷲、紅鶴
- 英名：Japanese crested ibis

■ 保護に関する指定等

特別天然記念物。国際保護鳥。
種の保存法に基づく「国内希少野生動植物種」。
ワシントン条約。付属書Iに掲載。
日本版レッドリスト。EW (Extinct in the Wild、野生絶滅)に掲載。
IUCN版レッドリスト。EN (Endangered、絶滅危惧)に掲載。

■ 生息環境と生態

餌となるドジョウやカエルが豊富な水田や湿地、沢があり、その近くに営巣できるマツや広葉樹の大木が生育する森林のある環境に生息する。春から夏の繁殖期には「つがい」で山中に入ってなわばりを形成し、営巣、産卵、育雛を行う。秋になると群をつかって比較的広い範囲を移動し、稲刈りの終わった水田や湿地などで集団で採餌をするようになる。

■ 食性

水田や湿地、沢などで、ドジョウ、カエル、サワガニ、昆虫など動物質のものを食べる。

■ 繁殖

早春にペアを形成し、山中のマツや広葉樹の大木に小枝を組んだ直径1mくらいの巣をつくる。他のトキ類のような繁殖集団(コロニー)はつくらない。3月下旬~4月上旬に3~4個の卵を産み、雄雌交替で温める。卵は約1ヶ月で孵化し、雛は約2ヶ月で成鳥とほぼ同じ大きさに成長し、巣立ちを迎える。飼育個体では2年、野生では通常3年で繁殖を始める。

■ 天敵

猛禽類(ワシやタカなど)やカラスなどの鳥類、イタチやテンなどの哺乳類のほか、アオダイショウなどのヘビ類も巣の中の雛や卵を襲う天敵となる。

■ トキが減少した理由

明治時代に美しい羽毛をとるために乱獲され激減した。昭和以降では、森林の伐採による繁殖地の減少、農業の多用による餌動物の減少と身体の汚染、山間部の水田の消失、テンなどの天敵の増加のほか、人の接近による繁殖妨害も個体数を減らした原因と考えられる。

■ 分布(分布図参照)

ロシア極東、中国東北部から中部、朝鮮半島、台湾、日本など東アジア一帯に広く分布していた。しかし、乱獲と生息環境の悪化により各地で減少し、現在野生のトキが生息しているのは中国陝西省のみである。



【トキの生息地】

